Trinity

キズナエピソード\_大鳥丹\_05

------------------------------------------

//ADV形式開始

//背景:大鳥家

［丹］

「…………」

［丹］

（私、どうしてあんな……）

［丹］

（とびおくんといると、

自分がコントロールできなくなってしまう……

今まで一度もこんなことなかったのに……）

［丹］

（彼なら、何でも受け入れてくれると感じてた――？

彼なら、ずっと優しくしてくれると思ってた――？）

［丹］

「違う……。彼は私を全て受け止めて、

ちゃんと自分の言葉で返してくれる人だった……

誰かにそんな風にしてもらった事、今まで一度だって……」

［丹］

「あの時のとびおくん……

すごく傷ついた顔をしてた……」

［丹］

「……もう全て、おしまいね……」

［蒼］

「おーい」

［丹］

「あ、蒼!?　おかえりなさい……いつからいたの？」

［蒼］

「今帰ってきたところだ」

［丹］

「……聞こえてた？」

［蒼］

「なにかぶつぶつ言っていたな。

内容は聞き取れなかったが」

［丹］

「そう……」

［蒼］

「……何かあったのか？」

［丹］

「え!?

……なにもないわよ」

［蒼］

「いつもなら、

誕生日の翌日はオレより帰ってくるの遅いだろ。

それに……顔を見ればわかる」

［丹］

「……蒼に隠し事はできないわね」

［蒼］

「丹がそんなに悩んでるなんて、珍しいな……

なにがあったんだ？」

［丹］

「…………昨日ね、

とびおくんって男の子の家に泊まったんだけど……」

［丹］

「私が泊まる理由を話したら、叱られちゃったの

それで、私も何故かカッとなって言い返してしまって……

喧嘩別れしちゃったの」

［蒼］

「……オレ達の理由は褒められたものじゃないが、

丹を泊めた男に叱る資格はないだろう」

［丹］

「……違うの！

とびおくんは、今までの男とは違ったのよ……」

［蒼］

「…………そうか、

丹がそんなに声を荒げるなんて、

確かに何かが違うんだろうな……」

［丹］

「とびおくんは私の話を真剣に聞いてくれて、

私の為を想って叱ってくれた……」

［丹］

「逃げてたら何も変えられないって、

真っすぐな目で教えてくれたの……」

［丹］

「それなのに、私は、感情が抑えられなくなって……」

彼に酷い言葉を浴びせて帰ってきたの。

もう、二度と会えないわ……」

［蒼］

「……なんだ。そんなことか」

［丹］

「そんなこと――!?」

［蒼］

「だって、自分でさっき言ってたじゃないか、

『逃げてたら何も変えられない』って教わったって。

その、とびおという青年からは逃げないんだろ？」

［丹］

「そっ、な……

で、でも……」

［蒼］

「話を聞く限り、丹に相応しい、素敵な男だ。

きっと、もう一度ちゃんと向き合えば、

仲を取り戻せるはずだ」

［丹］

「蒼……、私、

とびおくんに会って、謝りたい……！

謝って、大切なことに気付かせてくれたお礼をしたいの」

［丹］

「でも……とびおくんは、今までの男性とは違うから、

何をしてあげたらお礼になるのか

わからないの……」

［蒼］

「……何かをしてあげるとか、

考えなくていいんじゃないか？」

［丹］

「……どういうこと？」

［蒼］

「丹のその気持ちを、そのまま伝えればいい。

きっとそれだけで喜んでくれる」

［丹］

「……それじゃ、

お礼にならないんじゃ……？」

［蒼］

「きっとその男は、

丹が幸せになれば、それが一番嬉しいはずだ」

［丹］

「私が幸せになるだけで……？

それじゃあ私だけが得をして、おかしいわ……。

とびおくんには何も返せないの？」

［蒼］

「……とびおという青年は、

丹を幸せにすることで、

何か見返りを求めたりする人物なのか？」

［丹］

「……違う……と思うけど」

［蒼］

「丹は、男に対して与えた以上の物を

返してもらった事が無いから

そう考えてしまう癖がついているんだろう」

［蒼］

「でも、世の中はこれだけもらったから、

同じぐらい返さないといけないって関係だけじゃない」

［蒼］

「その男が丹の幸せを望んでくれているなら、

丹が幸せになることが見返りなんだ。

それ以上はきっと何も要らない」

［蒼］

「オレだって丹に対してそう思っている。

……ここまで言えば、もう意味はわかるだろ？」

［丹］

「…………私、彼のところへ行ってくる」

［丹］

「蒼、ありがとう！」

//5話終了